

8月5日、6日にわたって東大見学会企業大学訪問のため日本の首都東京を訪れました。

第1日目の午前中ではディレクトフォースが行われ、私は先生方が交渉し、準備していただいた大企業三菱商事を訪問しました。私たちのグループが三菱商事を訪問すると聞いたとき、自分が日本を代表するような大企業に入ることができる喜び、逆にこんな自分が大企業に入ってもいいのかという不安などを感じました。

新幹線で東京へ行き、丸の内口から駅を出て、ほんの2、3分歩いた先に三菱の本社はありました。不思議な形のモニュメントの脇を過ぎ、ガラス張りの入り口を私たちは通りました。会社の本社と言ったら事務的な仕事を行っているようなイメージを抱いていた私は、三菱商事の本社の外見を見た瞬間、常に真新しさを探求し、日本の最先端を駆け抜けていくような雰囲気を感じました。

本社に入った私たちは1つの部屋に集まり会社全体の説明や各事業の紹介を受けました。ここで感じたことは、まず三菱商事の規模の大きさです。国内だけでなく海外にも連携した会社を持つ三菱は日本トップクラスの規模であり、日本企業のリーダー的存在です。訪問する前、三菱と言ったら私は鉛筆から車までつくるものづくりの会社だと思っていました。しかし、それは三菱商事の一事業にすぎず、改めて三菱の大きさを痛感しました。また、東日本大震災のときには復興支援金や、社員のボランティア活動などでたくさん援助していただいたことも知りました。

次に三菱の方々とは話し合いをさせていただきました。中でも心に残ったことが2つあります。1つ目は、難問にはとことんぶつかるということです。物事には山谷があるため、粘り強くやり続けることが大切だとおっしゃっていました。ここ最近の若い人はすぐに諦めてしまう傾向にあるといます。数学などの問題を深く考え込むことで、簡単に諦めなくなり、これからの人生で正誤の判断を熟考し、仕事上で良いアイデアを導き出すことができるそうです。難問にぶつかるという点で、仙台二高の環境は最適だと私は思いました。周りの友達に刺激されつつ、難問にじっくり当たれる環境を最大に活用し、将来を見据えながら日々の生活を送りたいと改めて感じました。2つ目は、現在のグローバル社会では人柄が大切だということです。このことは、実際海外に出張された方から聞きました。その方は外国の人と関わると自分の世界が広がったそうです。基本外国の人は自分を知ってもらうために自分が興味のあることを話してくるらしく、外国の人と交流を持つには相手の世界観を受け入れてあげることが重要だとおっしゃっていました。相手に近づいてみる人柄、狭い世界から開けた世界へ進むとする姿勢、未知なるものにチャレンジしようとする精神が世界で活躍するための武器になるということです。私が大人になる頃には外国の人と生活を共にするのが当たり前となる社会になっているかもしれません。人柄は少しの努力で変えられるものではないと思うので、この話し合いをきっかけに少しずつ良い方向へと導いていきたいと思います。このほかにも幅広い趣味を持っておいて人間の総合力を高めておくや、いろいろな情報網を持っておき、社会に敏感になっておくなど一社会人として欠かせない事、心構えを教えてくださいました。

ディレクトフォース終了後、昼食を挟みながら企業大学訪問のため防衛省へ移動しました。将来航空関係に就きたいと考える班員が多い私たちの班は日本の安全を守る防衛省の航空自衛隊への見学に決めました。防衛省とは、陸上、海上及び航空の自衛隊を管理、運営する機関で日本の中央省庁の1つです。市ヶ谷まで電車で移動し、広大な敷地を持つ防衛省に到着しました。役員の方からパスを受け取ってゲートを通る厳重な体制に緊張を感じながらも、これから始まる航空自衛隊とのお話が楽しみでした。

私は戦闘機を操縦するのを希望したので戦闘機に搭乗していた方からお話を伺いました。就職する過程や就職後の活動について様々な事を教わりました。中でもパイロットは目が悪くては操縦できないので、毎晩星を見ていたという話が心に残りました。小さな事をコツコツ積み上げていくことで自分の夢へ近づく事ができるのだと体験談から私は再度確信しました。さらに、わがままであってはいけない、皆と協調性を持って何事にも取り組

むべきだと言われました。私は、石巻に住んでいた頃、上空を飛ぶブルーインパルスをよく見ていました。一糸乱れぬ編隊をなして飛ぶ勇ましい姿は私に感動を与え、飛行機に対する興味を生みました。やはり、この協調性があるからこそ、こんなにも素晴らしい飛行をする事ができるのだと今思いました。

次に防衛省の施設、市ヶ谷記念館に移動しました。市ヶ谷記念館では防衛省が市ヶ谷に移設される前の歴史について学びました。太平洋戦争後の極東国際軍事裁判では法廷として使用され、戦後日本が歩み出す一步となった場所でした。記念館の中には、戦時中に使用されていた軍服や地図が展示され、その二階には旧陸軍大臣室と旧便殿の間がありました。戦時中の日本の様子を肌で感じ取る事ができ、当時の苦しさや辛さを感じ取れるような場所でした。

午前と午後の行程が終了し、東京から東海道本線で横浜市内のホテルに移動しました。ここで私たちは夕食を挟み、一休みしました。

休憩後、二高 OBOG の東大生から東大合格の秘訣や中学時代の勉強方法を教えていただきました。その中でも自分の今後の生活、勉強に活かそうだなと思ったことが3つあります。1つ目は、勉強は自分に最も合うやり方を自分で判断して勉強すべきだということです。確かに自分に合わない勉強をしてもやりがいや楽しみは感じないだろうし、学力を伸ばす効率も良くないと思います。私は、勉強の習慣こそついているものの、自分に最も合っているかと言われると微妙なところです。一年生のうちに自分に合うやり方を見つけ、大学受験に向けた効率の良い勉強にしていきたいと思います。2つ目は、自分のタイミングを見逃さないということです。大学の生活は高校の生活より忙しいと言います。また、大学卒業後のための就職活動も自主的にやる必要があります。行動力が欠かせないそうです。また、終わってから後悔しないように失敗を恐れただけではなく、失敗した後しっかりと責任を負えるかどうかも大切だと教わりました。大人になったら失敗をかばってくれる人はいません。精神的にも自立した人間になれるように高校生活で心身を鍛え、行動を起こすタイミングをしっかりと見極められるようになりたいと思いました。3つ目は、今のうちに体力をつけておくということです。前にも書きましたが大学の生活は忙しく、十分に自分の健康を配慮した生活を送るのが難しいそうです。何をやるにしてもやり続ける持久力や辛いことに耐える耐久力、さらには自分には体力があるという自信がなければまず行動に踏み切ることができません。力が有り余る高校生のうちに体力を高めておき、体が追いつかないために行動できなかったということがないようにしたいと感じました。

今回の東大見学会企業大学訪問を振り返って、様々な場面において、経験豊富な方々とお話することができて本当に良かったなと思います。経験豊富な方々とお話できた分、参考になった点やこれからの人生で活かそうな点がたくさんありました。何が自分に必要なのかひとつひとつ振り返りながらこれからの生活を充実させていきたいです。